

富山県

# **南砺市埋蔵文化財分布調査報告6**

— 福光地域5・井波地域1 —

2010年度

2011年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

富山県

# 南砺市埋蔵文化財分布調査報告6

— 福光地域5・井波地域1 —

2010年度

2011年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

## 序

南砺市には、国指定の高瀬遺跡や世界遺産にも登録されている相倉・菅沼の合掌造り集落などの貴重な文化財が数多く存在しています。また、遙か太古からの先人の営みも残されており、立野ヶ原台地における旧石器時代の遺跡群をはじめ、市内の各所には縄文時代から中世までの遺跡が多数確認されています。

このような文化財は、現代に生きる我々が未来へと受け継ぐ財産です。地域で産まれ、育まれてきた文化財は保護・活用することで地域の発展に貢献すると考えております。市内に残された遺跡は市の歴史を語るうえで他に変えることのできない貴重な資料であり、大切な文化遺産です。

市教育委員会では遺跡の把握、保存に努めるために詳細分布調査を行っています。市内の遺跡地図を充実させることは、今後の遺跡の保存と整備、開発行為との調整において欠かせません。

この報告書が今後の学術研究や、郷土の歴史を知るための参考となり、文化財保護に対する理解の一助になりましたら幸いです。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力とご理解をいただきました地元の方々、関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

南砺市教育委員会  
教育長 浅田 茂

## 例　　言

1 本書は南砺市教育委員会が国庫補助をうけて実施している、市内遺跡詳細分布調査（2010年度）の調査報告である。

2 調査は富山大学考古学研究室の指導と協力を得て、南砺市教育委員会が主体となり実施した。

3 今年度の調査は、南砺市井波地域山野地区（坪野・山斐・岩屋・飛騨屋・野能原・井波輪屋・安室・清水明・高屋・専勝寺）、高瀬地区の一部（神子畑・勧学院）、福光地域太美山地区（太美・吉見・構掛・立野脇・樅瀬戸）西太美地区の一部（糸谷新・小二又）を対象とした。調査期間は次のとおりである。

平成22年4月10日(土)～4月11日(日) — 山野地区、高瀬地区

平成22年11月13日(土) — 太美山地区、西太美地区

4 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化財係長野村和善、文化財係主任佐藤聖子・宮崎順一郎が調査事務を担当し、文化課長浦辻一成が統括した。現地踏査、資料の整理、本書の執筆と編集は、以下の調査担当者、調査補助員が分担して行い、執筆の分担は文末に記した。

調査担当者 富山大学人文学部考古学研究室 教授 黒崎 直

同 准教授 高橋 浩二

南砺市教育委員会文化課文化財係 主任 佐藤 聖子

同 主任 宮崎順一郎

調査補助員 舟崎久雄・岩崎 想（富山大学人文学部考古学研究室大学院生）

鵜野千恵美・生方香織・及川実沙子・河合陽介・北村史織・嶺嶽文佳・小浦方志織・

東海林心・百瀬香菜子（富山大学人文学部考古学研究室四回生）

井澤昇・井上恭一・岩崎俊樹・北島裕子・塩澤恭輔・瀬原史織・宮崎厚平

（富山大学人文学部考古学研究室三回生）

今井翔・大澤拓馬・工藤海・三宅克幸（富山大学人文学部考古学研究室二回生）

河合陽子・西川和美（南砺市臨時雇用職員）

5 現地調査では井波・福光地域各地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。記して深く感謝したい。

6 採集遺物および記録図面は、南砺市教育委員会が保管している。

7 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1)方位は真北である。

(2)挿図の遺物実測図の縮尺は1/3である。

(3)写真図版の遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。

## 本文目次

序 文	
例 言	
目 次	
I 位置と環境	1
II 調査の経過	2
第1表 調査区内周知の埋蔵文化財包蔵地	3
III 調査の概要	7
1 遺跡と採集遺物	7
2 遺物の散布状態	11
IV まとめ	12
参考文献	13
第2表 調査結果遺跡一覧表	13
図 版	
写真図版	

## 図版目次

第1図 南砺市位置図	
第2図 調査地区割図 (1/200,000)	
第3図 調査地区概要図1 (1/30,000)	
第4図 調査地区概要図2 (1/30,000)	
第5図 調査結果概要図1 (1/15,000)	
第6図 調査結果概要図2 (1/15,000)	
第7図 繩文・弥生～古墳の遺物散布状況 (1/20,000)	
第8図 古代の遺物散布状況 (1/20,000)	
第9図 中世の遺物散布状況 (1/20,000)	
第10図 近世・近代の遺物散布状況 (1/20,000)	
第11図 遺物実測図 (1)	
第12図 遺物実測図 (2)	
第12図 遺物実測図 (3)	

## 写真図版目次

図版1 遺跡全景 (1)	
図版2 遺跡全景 (2)	
図版3 遺跡全景 (3)	
図版4 遺物写真 (1)	
図版5 遺物写真 (2)	
図版6 遺物写真 (3)	

# I 位置と環境

平成16年11月1日、砺波地方所在の八町村であった城端<sup>じょう</sup>、平村<sup>ひらむら</sup>、上平村<sup>じょうひらむら</sup>、利賀村<sup>りかむら</sup>、井波町<sup>いのわまち</sup>、井口村<sup>いのくのむら</sup>、福野町<sup>ふくのまち</sup>、福光町<sup>ふくみつまち</sup>が合併し南砺市が誕生した。南砺市は富山県の南西部端に位置し、北は砺波市、小矢部市に、東は富山市に、西は石川県金沢市、南は岐阜県飛騨市や白川村に隣接している。山間部は、白山国立公園に指定され、すぐれた自然景観を残しており、庄川や小矢部川の流れる平野部は水田地帯として、また、「散居村」として知られている。面積は668.86平方kmで東西約26km、南北約39kmに広がっている。

旧石器時代の遺跡は、福光・城端両地域の境に位置する立野ヶ原を中心広がっており、点在する144か所の遺跡は立野ヶ原遺跡群と呼ばれている。めのうや鉄石英が豊富で、それらを利用した石器製作場所がいくつか確認されており、富山県内で最も古い遺跡群の一つとして知られている。

縄文時代に入ると、生活の場は平野部にも広がる。草創期から前期にかけて確認している遺跡数は少ないものの、中期には西原A遺跡や徳成遺跡、後・晩期には後期の指標遺跡である井口遺跡をはじめ安居五百歩遺跡、五瀬遺跡がある。

弥生・古墳時代の遺跡は、確認されている数が少ないが、近年のは場整備事業等により神成遺跡では、弥生終末期から古墳時代にかけての竪穴住居や周溝構造を確認しており、また梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居を確認している。

古代の遺跡には、7世紀・9世紀の竪穴住居跡を約10棟確認した在房遺跡や、9世紀前半の梅原落戸遺跡がある。その他、中世の指標となる大集落として知られる梅原胡摩堂遺跡の東側で、8世紀から10世紀にかけての竪穴住居等の遺構を確認している。またこれら古代の集落に日常食器を供給していたであろう窯に安居・岩本窯跡群がある。

中世には、平野部に大規模な集落が広がる。梅原胡摩堂遺跡をはじめ久戸遺跡から田尻遺跡に至る中世集落跡は南北2km、東西1kmにわたり、掘立柱建物、竪穴状土坑、井戸、区画溝などの遺構や、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸などの遺物が多く確認されている。

今年度の対象地域は、井波地域山野地区（坪野・山斐・岩屋・飛騨屋・野能原・井波軸屋・安室・清水明・高屋・専勝寺）、高瀬地区の一部（神子畑・勧学院）、福光地域太美山地区（太美・吉見・綱掛・立野脇・樋瀬戸）西太美地区の一部（糸谷新・小二又）である。

井波地域は高清水山系の八乙女山麓に広がり、砺波市と接する。当地域には越中一宮の高瀬神社がある。「続日本紀」宝亀11年（780）に高瀬神が從五位下を叙せられ、「三代実録」貞觀元年（859）まで正三位の神階昇叙がなされ、越中では最も社格の高い神社となっている。また、平安時代から中世には白山山岳修験道が医王山山麓一帯から高清水山麓に発達し、その後、市街地の南側の山麓には閻乘寺・志観寺・清玄寺・連代寺・東城寺などの真言・天台の寺が多くできた。やがて北陸に浄土真宗が急速に浸透し、瑞泉寺が築かれ、蓮如の



第1図 南砺市位置図

ころには城郭武装した寺院として勢力を持ち一大真宗王国の拠点となった。今回調査した山野・高瀬地区には周知の埋蔵文化財包蔵地として古代・中世の遺跡が存在する。古代の遺跡は市指定史跡となっている勧学院田址がある。『延喜式』諸国田条の記録によれば、高瀬に設置された大学寮墾田地は総面積18町4段200歩あり、そのうち未開地が5町2段160歩で、残り13町2段40歩が熟田だったとされる。この熟田の賃租収入をもって学生の食料代にあてていたという。中世の遺跡は坪野雪舟田遺跡があるが、調査されていない散布地である。

福光太美山・西太美地区はいずれも医王山山麓に点在する集落で、中世に開けたとされる。周知の埋蔵文化財包蔵地は主に旧石器・縄文時代・弥生の遺跡が存在する。これらの遺跡は調査されていない散布地がほとんどだが、野地島A・B・C・D遺跡は昭和55年に発掘調査が行われた。そのうち野地島A遺跡で土坑が確認され、旧石器から弥生時代の遺物が出土している。

(宮崎順一郎)

## II 調査の経過

平成16年11月の町村合併までに各々の旧町村で確認していた埋蔵文化財包蔵地（以下、「包蔵地」）の数は、590ヶ所あまりである。これらの包蔵地の多くは、古い伝承に基づくもの、開発行為にかかる事前調査によって発見されたものである。町村合併時において、詳細な分布調査が行われていたのは、旧福野町全域、旧城端町域の平野部、旧福光町・旧井口村域において県営は場整備事業等の大規模な開発行為が行われた地域のみであった。市内には、未だ包蔵地の詳細が全く確認されていない未調査地区が多く、包蔵地の保護と開発行為との円滑な調整を計っていくためにも、詳細な分布調査を実施することになった。

分布調査の実施については、旧城端町で平成13年度より7ヶ年にわたって町全域を調査する予定にしていったが、町村合併にあたり計画変更を行い、平成18、19年度に調査予定であった旧城端町域の山間部を先送りし、未だ未調査地区が多い南砺市平野部について先行し調査を行うこととした。

南砺市平野部における未調査地区は、福光地域（調査実施済みである北山田地区、高宮・小林・殿の一部、岩木、祖谷、竹内を除く）、井口地域の一部、井波地域である。このうち、福光地域を4分割、井波地域、井口地域を合わせて2分割し、未調査地区を7分割し7ヶ年で南砺市平野部の調査を実施することとした（第2図参照）。調査の成果は年度毎にまとめ公表する予定である。

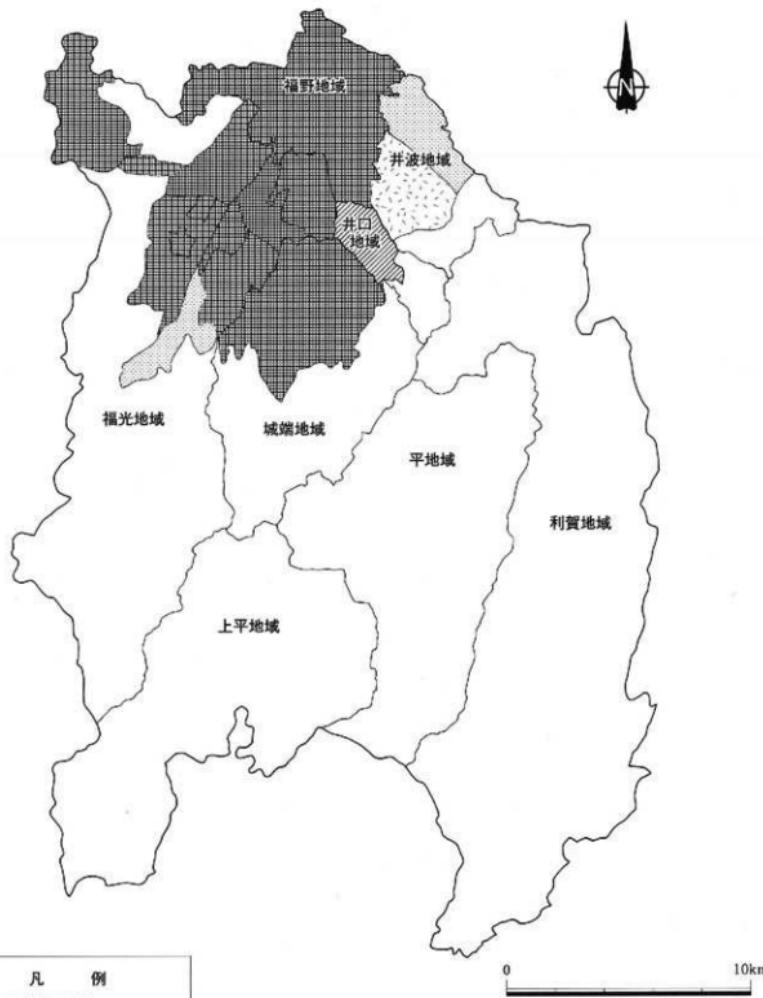
調査は、南砺市が国庫補助を受け、富山大学考古学研究室の指導・協力を得て進めることとした。現地踏査は井波地域山野・高瀬地区を春期に行い、福光地域太美山・西太美地区を秋期に行った。踏査の際は、1/2,500もしくは1/5,000の地形図を持参し、田畠一枚一枚をくまなく踏査し、土器、石器等の遺物を探集して、探集地点を図面に記録した。探集した遺物は、洗浄後探集地点を注記し、実測作業をおこなった。その後、遺物の散布状況、地形、伝承等も加味しつつ、包蔵地の範囲を決定した。

今年度の調査対象地において、調査実施までに確認している周知の包蔵地及び調査履歴については、第1表のとおりである。

(宮崎順一郎)

第1表 調査区内の埋蔵文化財包蔵地

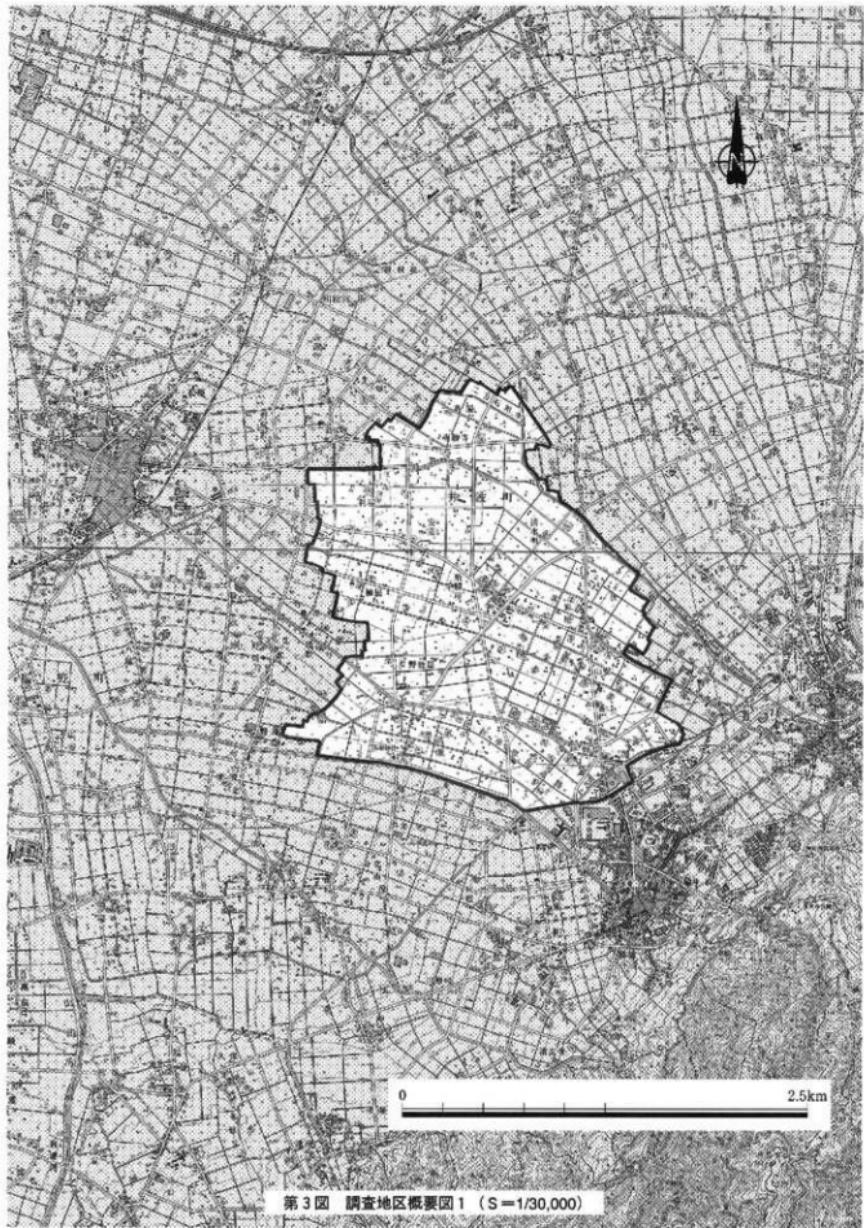
遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	調査履歴	調査原因	備考	第5-6回No.
坪野雪舟田遺跡	つばのそりだいせき	坪野	中世	中世散布地				1
高瀬的錦町遺跡	たかせの的錦町	高瀬	古代	古代散布地				2
鈴学院田址	かんがくいんでんし	高瀬	古代	古代田畠			市指定史跡	4
糸谷古屋敷遺跡	いとだにふるやしきいせき	糸谷	不明	不明				5
小二又遺跡	こぶたまたいせき	小二又	旧石器	旧石器散布地				6
古里敷遺跡	ふるやしきいせき	小二又	不明	不明				7
寄地島D遺跡	のじじまでーいせき	小院観見 宇野地島	绳文	绳文散布地	S55試掘	福光温泉自然公園		8
野地島B遺跡	のじじまびーいせき	小院観見	绳文	绳文散布地	S55試掘	福光温泉自然公園		9
野地島A遺跡	のじじまえーいせき	小院観見 宇野地島	旧石器、绳文草、 绳文早、绳文前、 绳文中、弥生中	旧石器散布地 绳文早然お地 绳文早然お地 绳文前然お地 绳文中然お地 弥生中然お地	S55試掘	福光温泉自然公園	時代小明の土坑発 現石器・绳文・弥生時代の 遺物出土	10
野地島C遺跡	のじじましーいせき	小院観見 宇野地島	绳文(中期)	绳文散布地	S55試掘	福光温泉自然公園		11
ヒジカケ坂遺跡	ひじかけさかいせき	塚兼	旧石器、绳文	旧石器散布地 绳文散布地				12
飯山A遺跡	いいやまえーいせき	重安	旧石器・绳文(中期)	旧石器散布地 绳文散布地			飯山遺跡	13
米田遺跡	よねだいせき	米田	绳文 (中期・後期)	绳文中然お地 绳文後然お地				14
飯山C遺跡	いいやましーいせき	重安	不明	不明散布地				15
飯山B遺跡	いいやまびーいせき	米田	旧石器	旧石器散布地				16
小丸山砦跡	こまるやまとりあと	塚兼	中世	中世城館			小丸山城跡	17
平林B遺跡	ひらばやしごーいせき	麻績字書	绳文後	绳文後然お地				18
猪瀬戸遺跡	ひのせといせき	猪瀬戸	绳文(中期)	绳文中然お地				19
猪瀬戸B遺跡	ひのせとびーいせき	猪瀬戸	不明	不明散布地				20

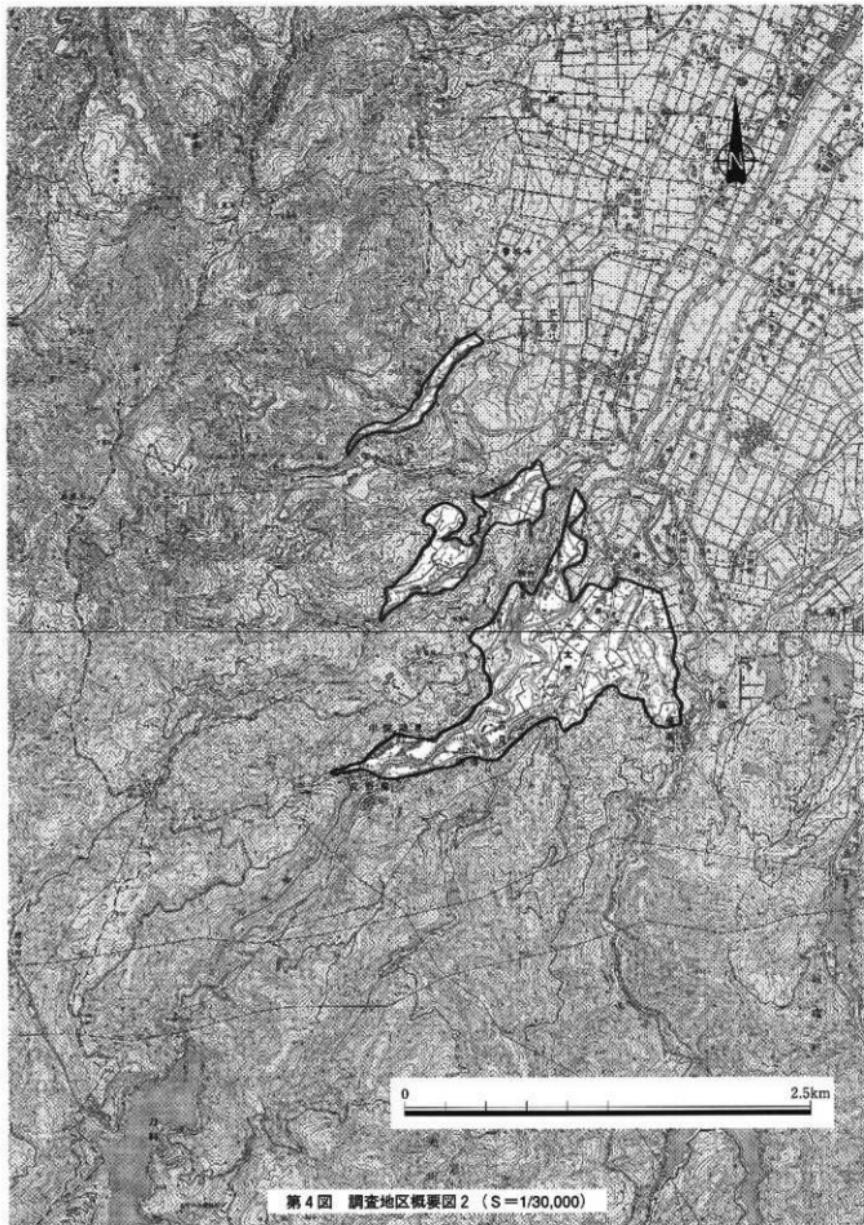


#### 凡　例

- |   |              |
|---|--------------|
| ■ | 調査完了地域       |
| ● | 平成22年度調査実施地域 |
| □ | 平成23年度調査予定地域 |
| ▨ | 平成24年度調査予定地域 |
| □ | 平成25年度調査予定地域 |

第2図 調査地区割図 ( $S=1/200,000$ )





第4図 調査地区概要図2 (S=1/30,000)

### III 調査の概要

#### 1 遺跡と採集遺物

##### (1) 坪野雪舟田遺跡

採集した遺物は珠洲が1片で、図示した。

1は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に約3mm幅で9条の平行タタキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で、直径3mm以上の大さな砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。(岩崎想)

##### (2) 高瀬釣鐘堀遺跡

採集した遺物は、須恵器2片、土師器1片、珠洲10片、瀬戸美濃1片、越中瀬戸1片、青磁1片、近世陶器4片、近世磁器1片である。その内14点を図示した。

2は古代須恵器壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が黄褐色、内面が灰褐色を呈する。焼成は良好である。

3は古代須恵器壺の胴部である。外面に平行タタキ目を交互に施し、内面に指頭圧痕を残す。胎土は密で、1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

4は珠洲壺の頸部から肩部のものである。外面に格子目状のタタキ目、内外面にヨコナデ調整が認められる。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好である。

5は珠洲すり鉢の胴部である。内面に約2mm幅で7条の卸目を施す。断面に漆の付着が認められる。胎土は密である。色調は外面が灰白色、内面が灰色を呈する。焼成は良好である。

6は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に格子目状のタタキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

7は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に平行タタキ目を残す。胎土は密で、直径1~2mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

8は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に指頭圧痕を残す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

9は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に平行タタキ目を残す。胎土は密である。色調は外面がにぶい黄色、内面が灰色を呈する。焼成は良好である。

10は珠洲の壺か壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で、直径2mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

11は珠洲の壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に指頭圧痕を残す。胎土は密である。色調は外面が暗灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好である。

12は青磁碗の口縁部である。口径は約12cmを測る。内外面に明緑灰色の釉を施す。口縁端部の一部がくぼんでおり、これは碗の口縁が波状を呈するためと思われる。胎土は密である。色調は断面が灰白色を呈する。焼成は良好である。時期は12世紀から14世紀頃と思われる。

13は土師器皿の口縁部である。胎土は密である。色調は外面が灰黄色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好である。時期は15世紀中頃と思われる。

14は陶器秉燭の底部である。底部外面の中心部が直径0.6cm、深さ2.1cmでくぼむ。底面に回転糸切り痕を残す。内外面に黒褐色の釉を施す。素地の色調は灰黄色である。胎土は密である。焼成は良好である。時期は18世紀から19世紀頃と思われる。

15は越中瀬戸皿の底部である。底径は約4.6cmを測る。高台は削り出し高台である。内外面にロクロナデ調整を施す。高台内側に同心円状の溝がみられる。胎土は密である。色調は浅黄色を呈する。焼成は良好である。時期は17世紀前半と思われる。

(岩崎想・今井翔)

### (3) 高瀬動学院遺跡

採集した遺物は、石器1点、須恵器1片、黒色土器1片、土師器2片、珠洲7片、越中瀬戸2片、瀬戸美濃1片、青磁1片で、その内12点を図示した。

16は打製石斧であるが、基部が欠けている。形態は短冊形に属する。長さ約15.3cm、最大幅約7.3cm、刃部幅約7.3cm、重さ約622gであり、石材は砂岩である。

17は土師器皿の口縁部である。口径は約10cmを測る。胎土は密である。色調は外面が灰褐色、内面が明褐色を呈する。焼成は良好である。時期は10世紀前半と思われる。

18は黒色土器（内黒）の椀の底部である。底径は約8.4cmを測る。底部には高台が付く。胎土は密である。色調は外面が明褐色、内面が黒色を呈する。焼成は良好である。

19は須恵器壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の當て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色である。焼成は良好である。

20は珠洲の壺か甕の肩部である。外面に平行タタキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で、3mm以下の砂粒を含む。色調は外面が明赤灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好である。

21は珠洲壺の口縁部である。口径は約14cmを測る。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

22は珠洲の壺か甕の胴部である。胎土は密で、約1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

23は珠洲の壺か甕の胴部である。外面に平行タタキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で、約2mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

24は瀬戸美濃卸皿の口縁部である。口径は約15cmを測る。外面上部に灰オリーブ色の釉、内面上部にオリーブ色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面下部がにぶい黄色、内面下部が灰白色を呈する。焼成は良好である。時期は13世紀末と思われる。

25は中世青磁碗の胴部である。内外面に明オリーブ灰色の釉を施す。内面には花形ないし波形の紋様の一部が認められる。胎土は密である。色調は断面灰白色を呈する。焼成は良好である。

26は越中瀬戸すり鉢の胴部である。胎土は密である。色調は外面が明赤褐色、内面が黒褐色を呈する。焼成は良好である。

27は越中瀬戸大皿の底部である。底径は約10cmを測る。高台は削り出し輪高台である。内面に灰黄褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面が灰黄褐色、内面が褐灰色を呈する。焼成は良好である。時期は16世紀末から17世紀初頭と思われる。

(今井翔・三宅克幸)

- (4) 勤学院田址、(5) 糸谷古窯敷遺跡、(6) 小二又遺跡、(7) 古屋敷遺跡、(8) のじ地島D遺跡、  
のじ地島A遺跡、(9) 野地島B遺跡、(10) 野地島C遺跡、(11) 野地島C遺跡、(12) ヒジカケ坂遺跡、(13) 飯山A遺  
跡、(14) 米田遺跡、(15) 飯山C遺跡、(16) 飯山B遺跡、(17) 小丸山砦跡、(18) 平林B遺跡、  
(19) 橋瀬戸遺跡、(20) 橋瀬戸B遺跡

今回の調査において遺物は採集されなかった。

(三宅克幸)

## その他の採集遺物

遺跡範囲外の採集品についても、将来的な遺跡発見の可能性を高めるため、全ての採集地点を記録している。そのうち主なものについて示す。

28は打製石斧である。形態は分銅形に属する。長さ約9.2cm、最大幅約7.7cm、基部幅約7.3cm、刃部幅約7.2cm、重さ約403gであり、石材は砂岩である。

29は打製石斧である。形態は撥形に属する。長さ約20.0cm、最大幅約10.4cm、基部幅約6.0cm、刃部幅約10.2cm、重さ約651gであり、石材は砂岩である。

30は弥生土器または土師器の壺または壺の胴部である。外面に赤彩を施す。胎土は密である。色調はにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好である。

31は土師器柄の底部である。外面にヘラケズリ調整を施す。胎土は密である。色調はにぶい褐色を呈する。焼成は良好である。時期は10世紀末と思われる。

32は須恵器杯の底部である。外面にヘラケズリ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。時期は9世紀から10世紀頃と思われる。

33は古代須恵器壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は暗灰色を呈する。焼成は良好である。

34は古代須恵器の壺か壺の胴部である。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。外面に薄く自然釉がかかる。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。

35は中世の土師器皿である。胎土は密で、1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が橙色、内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好である。

36は珠洲の壺で、底部近くのものである。外面にはロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好である。

37は珠洲の壺か壺の胴部である。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好である。

38は珠洲の壺か壺の胴部である。胎土は密である。色調は暗緑色を呈する。焼成は良好である。

39は珠洲の壺か壺の胴部である。外面にヘラケズリ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好である。

40は中世青磁碗の口縁部である。口径は約9cmを測る。内外面に明オリーブ灰色の釉を施す。釉の厚さは約0.5mmである。胎土は密である。色調は断面が灰白色を呈する。焼成は良好である。時期は15世紀頃と思われる。

41は越前の壺か壺の体部である。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面がにぶい褐色を呈する。焼成は良好である。

42は越中瀬戸すり鉢の胴部である。外面にロクロナデ調整、内面に鉗目を施す。胎土は密である。色調は赤灰色を呈する。焼成は良好である。

43は瀬戸美濃天目茶碗の胴部である。外面にロクロナデ調整を施す。外面上部、内面に黒褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面下部が灰褐色を呈する。焼成は良好である。

44は越中瀬戸の体部である。器種は不明である。外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は赤褐色を呈する。焼成は良好である。

45は越中瀬戸すり鉢の胴部である。外面にロクロナデ調整、内面に鉗目を施す。胎土は密である。色調は外面がにぶい赤褐色、内面が灰赤色を呈する。焼成は良好である。

46は越中瀬戸すり鉢の口縁部である。口径は約26cmを測る。内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は暗赤褐色を呈する。焼成は良好である。時期は16世紀末から17世紀初頭頃と思われる。

47は越中瀬戸皿の底部である。底径は約4.8cmを測る。高台は浅く削り出した高台である。内外面にロクロナデ調整を施す。外面、内面端部ににぶい赤褐色の釉、内面胴部に灰オリーブ色の釉を施す。底部内面には菊花文を押捺する。胎土は密である。色調は底部内面がにぶい黄橙色、その周りがにぶい赤褐色を呈する。焼成は良好である。時期は16世紀末から17世紀初頭頃と思われる。

48は越中瀬戸皿の底部である。底径は約4cmを測る。高台は削り出し高台である。外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面がにぶい橙色、内面が明赤褐色を呈する。焼成は良好である。

49は越中瀬戸皿の底部である。底径は約5cmを測る。高台は削り出し高台である。外面にロクロナデ調整を施す。外面、内面端部に黒褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好である。時期は17世紀前半から中頃と思われる。

50は近世陶器の底部である。器種は不明である。底径は約4.4cmを測る。高台は削り出し高台である。外面にロクロナデ調整を施す。内面胴部に暗褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面、内面底部がにぶい黄色を呈する。焼成は良好である。

51は近世陶器の体部である。器種は不明である。外面にロクロナデ調整を施す。外面上部に褐色の釉、内面に黒褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面下部がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好である。

52は近世の小型の碗である。口径は約5.9cm、底径は約2.9cmを測る。外面にロクロナデ調整を施す。外面上部の一部に黒褐色の釉が残り、内面に黒褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面上部が暗褐色、下部が灰黄色を呈する。焼成は良好である。

53は石造物の一部と思われる。外面（図左面）には浮彫で模様が施されている。風化が激しいが、中央には日玉状の円形に突出する加工が認められる。最大長は約5.1cm、最大幅は約6.2cm、最大厚は約2.6cm、重さは約7gである。時期、石材とともに不明である。

（大澤拓馬・工藤海）

## 2 遺物の散布状況

今回の調査で採集した遺物の総数は、春期235片、秋期3片の計238片である。これらの散布状況を時期別に大別、集計した。1辺125メートルの方眼を設け、方眼1つを1ブロックとして、ブロック単位で採集遺物点数を示すこととする。なお、集計を行ったのは春期のみであり、秋期は行っていない。

各時期の総量は縄文3、弥生・古墳1、古代13、中世40、近世以降125、近代以降42、時期不明11片である。なお近世については、時期の確実な26片のみ表示した。

### （1）縄文時代の遺物散布状況（第7図）

縄文時代の遺物は打製石斧3点である。うち2点は今回の採集であるが、1点は寄贈を受けたものである。いずれも調査区南半で採集されている。表探の2点のうち1点は今回新たに発見された高瀬勤学院遺跡から、もう1点は高瀬釣鐘堀遺跡の近くから採集されている。

### （2）弥生・古墳時代の遺物散布状況（第7図）

弥生・古墳時代の遺物は土器1片である。調査区東端山斐地区で採集された。これまでこの時期の遺物は井波地域では採集されておらず、注目される。

### (3) 古代の遺物散布状況（第8図）

古代の遺物は須恵器7片、土師器6片を12ブロックから採集した。

調査区中央に南北に散発的に分布するが、南端に位置する高瀬勤学院遺跡に5片、高瀬釣鐘堀遺跡に2片が集中して分布している。東大谷川の対岸に位置する史跡高瀬遺跡等との関連が注意される。

### (4) 中世の遺物散布状況（第9図）

中世の遺物は土師器8片、珠洲26片、瀬戸美濃3片、青磁3片を28地点から採集した。

散布状況は調査区中央から東部では散漫であるが、南部では濃密に分布している。複数片を採集したブロックは6ブロックあるが、そのうち4ブロックが高瀬釣鐘堀遺跡、2ブロックは高瀬勤学院遺跡に位置し、いずれも遺跡地内である。土器片の数でみると高瀬釣鐘堀遺跡では14片採集されているが、遺跡の周辺から採集されたものを含めると20片以上になり、散布の中心がこの地域にあることがうかがわれる。

### (5) 近世の遺物散布状況（第10図）

近世の遺物は越中瀬戸10片、瀬戸美濃1片、越前1片、唐津と思われるものを含む陶器14片を、25地点から採集した。複数を採集したブロックは1ブロックだけである。遺物散布状況は全般に散発的であるが、調査区北部の高屋地区から専勝寺地区にかけてやや多数分布しており、隣接地区を含めて、分布域の拡大、遺跡の存在に注意が必要である。

（舟崎久雄）

## IV まとめ

今回の分布調査は、第一に南砺市の南西部を占める旧福光町において、2007・2009年度調査範囲の南に接する太美山・西太美地区と、第二に南砺市の南東部を占める旧井波町の山野・高瀬地区を対象に行った。

まず、旧福光町の太美山・西太美地区は、富山・石川県境の医王山麓に位置する。周りを険しい丘陵に囲まれ、平地は地区のほぼ中央を流れる小矢部川沿いと、その支流の糸谷川、太谷川沿いに点在するだけである。標高は約130～260mである。今回の調査では、小矢部川沿いの箇所から、縄文土器と中世陶器、それに近世陶器が1片ずつ採集された。北に隣接する2007・2009年度の調査範囲では疎らな散布だが、古代から近世の遺物が比較的多く見つかったのに対して、医王山麓の最奥部に位置する本地区はさらに散漫な分布傾向を示している。なお、本地区内には旧石器・縄文時代を中心に16箇所の遺跡があるが、遺物は採集されなかった。

次に、旧井波町の山野・高瀬地区は、庄川扇状地の扇頂部にあって、東大谷川（大門川）南岸の平地に立地する。標高は約70～95mである。標高751mの八乙女山から流れ出る東大谷川は、西大谷川と合流して旅川となり、さらに下流で小矢部川と合流して、越中国府があった高岡市伏木で日本海へ注ぐ。本地区内の南端には、「I位置と環境」でも記したように、延喜式内社の一宮、越中一の宮の高瀬神社がある。また本地区から外れるが、高瀬神社から南へ約700mの所には、平安初期の莊園遺跡と考えられる国史跡の高瀬遺跡がある。石仏地区と呼ばれる箇所からは、5間×4間(10.5×10.2m)の二面廻の主殿を中心にしてコ字形に並ぶ3棟の建物群や水路と、木簡、硯、淨瓶、瓦塔などが検出されている。また隣接する穴田地区からは、やや規模が小さくなるが方位を捕えて並ぶ建物群と和同開珎、「越中国官倉納穀交替帳」大同3年(808)および天長4年(827)の砺波郡擬主政の「中臣家成」ではないかとみられる「家成」銘の墨書き土器などが検出されている。その後は、白山山岳修験道が医王山麓を中心に隆盛した後、中世後半には浄土真宗が深く浸透し、瑞泉寺を拠点に多くの

寺院や山城が旧井波町域に築かれた。

さて、山野・高瀬地区では從来3箇所の遺跡が周知されていたが、今回新たに1箇所で遺跡を発見した（第2表）。また3箇所の内2箇所については、遺跡の範囲が拡張されることになった。以下にその概略を示す。

新規発見の高瀬勤学院遺跡は、古代から中世にかけての遺跡で、須恵器1片、黒色土器1片、土師器2片、珠洲7片、瀬戸美濃1片、青磁1片を採集した。他には、打製石斧1点と越中瀬戸2片が採集された。

統いて、範囲の拡張した遺跡について述べる。中世散布地の坪野雪舟田遺跡は、今回の調査で北東へ約50m、南西へ約30m拡張することとなった。ここからは珠洲1片が採集された。高瀬神社が含まれる古代散布地の高瀬釣鐘堀遺跡は、今回の調査で東へ約150m、西へ約120m拡張することとなった。ここからは須恵器2片の他に、中世に属する珠洲11片、瀬戸美濃2片、青磁1片、土師器2片が採集されたことから、古代から中世にかけての複合遺跡である可能性が浮上してきた。

最後に、遺物の散布状況から遺跡の動態に関して考えてみたい。古代の遺物は、高瀬釣鐘堀遺跡や高瀬勤学院遺跡、高瀬神社がある地区南端に多くの散布が認められる。地区北半部にも遺物の散布が見られるが、少数にとどまる。中世の遺物は、高瀬釣鐘堀遺跡と高瀬勤学院遺跡に集中する。古代の様相と同じく、地区北半部では散漫な分布傾向を示す。これに対して近世には、地区北半部にも多数の遺物の散布が認められるようになる。これらのことから、高瀬釣鐘堀遺跡や高瀬勤学院遺跡、そして東大谷川の対岸にある高瀬遺跡を中心とした古代・中世の土地の利用が、近世に入るとさらに広い範囲にすすめられていったことがうかがわれる。なお本地区内では、古墳時代以前に遡る遺跡は知られておらず、今回の調査において打製石斧と弥生から古墳時代にかけての土器が採集されたことは注目される。

以上、分布調査の成果を概述し、古代以後の土地利用に関して推測を行ってきたが、遺跡の大半は遺物散布地としての取り扱いであり、とりもなおさず遺跡の規模や時期、性格などについては不明確な点が多い。また、未確認の遺跡もなお存在することと思われる。今後は、さらなる遺跡の把握を行うとともに、これら遺跡の保護に務めていきたい。

(高橋浩二)

第2表 調査結果一覧（新規、内容変更の遺跡のみ記載）

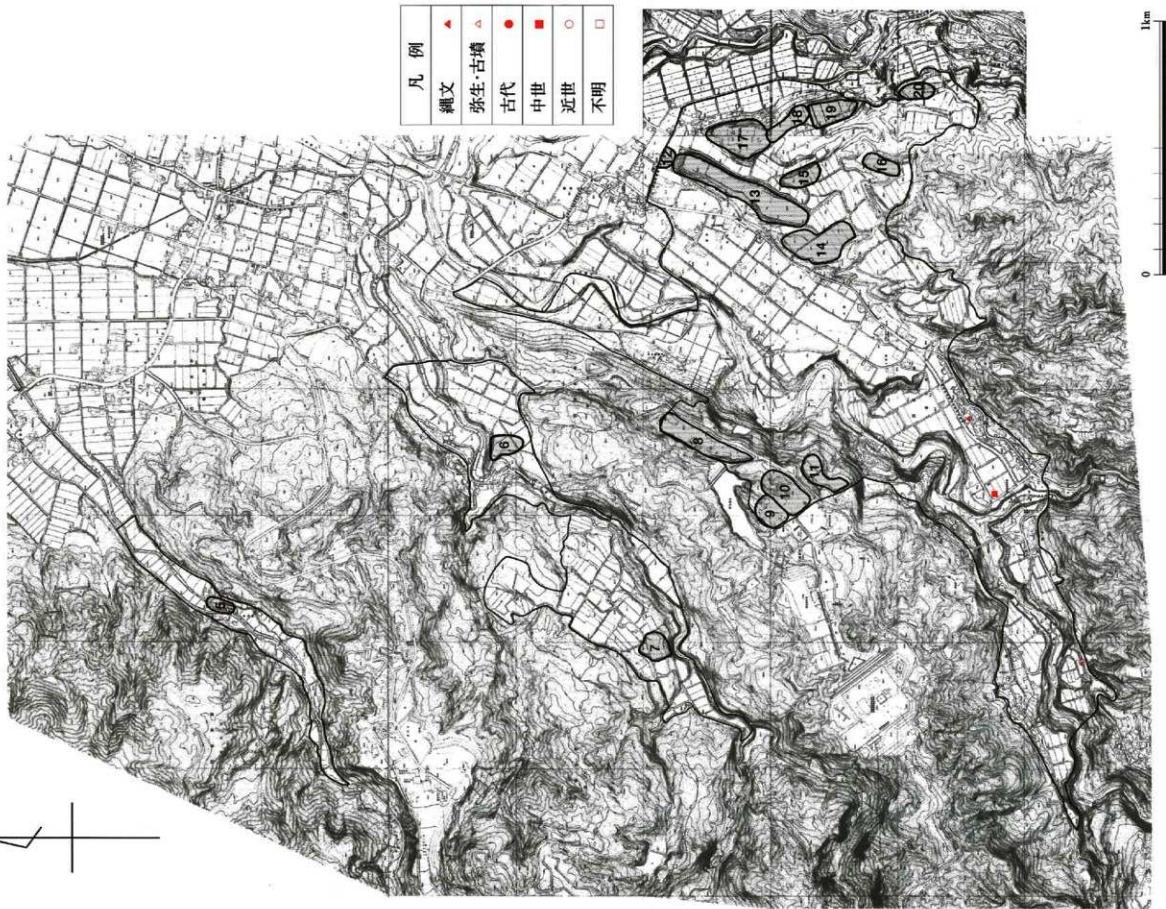
遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	備考	監視番号
坪野雪舟田遺跡	つのはのそりだいせき	坪野	中世	中世散布地	範囲拡大	1
高瀬釣鐘堀遺跡	たかせりがねぼりいせき	高瀬宇神子館	古代	古代散布地	範囲拡大	2
高瀬勤学院遺跡	たかせかんがくいんいせき	高瀬	古代、中世	古代散布地 中世散布地	H22新規	3

## 参考文献

- 井波町史編纂委員会1970『井波町史』(上巻)
- 井波町教育委員会1996『富山県・井波町高瀬遺跡発掘調査報告書』
- 上田秀夫1982「14~16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2、日本貿易陶磁研究会
- 小矢都市教育委員会2007『桜町遺跡発掘調査報告書』
- 窯跡研究会1997『古代の土師器生産と焼成遺構』真陽社
- 嶋田英誠・中澤富士雄2000『世界美術大全集・東洋編』第6巻 南宋・金、小学館
- 珠洲市立珠洲焼博物館1989『珠洲の名陶』
- 瀬戸市史編纂委員会1994『瀬戸市史』陶磁史篇四
- 中世土器研究会1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書(遺物編) - 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告II-』
- 富山県教育委員会1974『富山県埋蔵文化財調査報告書』 井波町高瀬遺跡 人善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書』
- 富山大学人文学部考古学研究室1989『越中上末窯』
- 南砺市教育委員会2010『高畠遺跡 - 市道高畠城端栄町線道路改良工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(2) -』
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室2007『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告2 - 福光地域1-』
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室2008『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告3 - 福光地域2-』
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室2009『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告4 - 福光地域3-』
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室2010『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告5 - 福光地域4-』
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団『関越自動車道堀之内インターチェンジ関連発掘調査報告書 清水上遺跡Ⅱ』
- 北陸中世考古学研究会2006『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』
- 北陸中世土器研究会1997『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』桂書房
- 宮田進一1997『越中瀬戸の窯資料(1)』『大境』第12号、富山考古学会

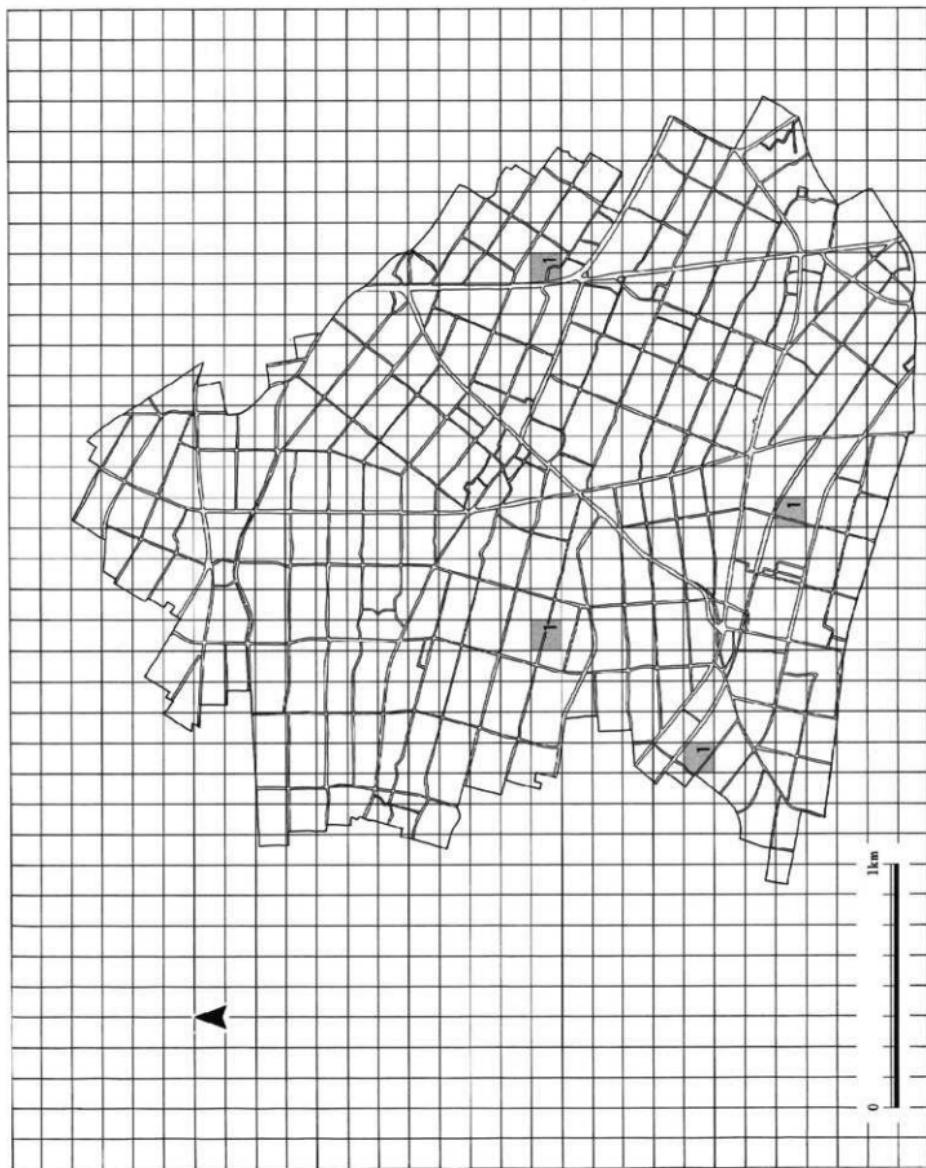


第5図 調査結果概要図 ( $S = 1/15,000$ )  
 1. 平野・舟田遺跡 2. 高利の城跡跡跡 3. 高利の城跡跡跡 4. 勉学院址



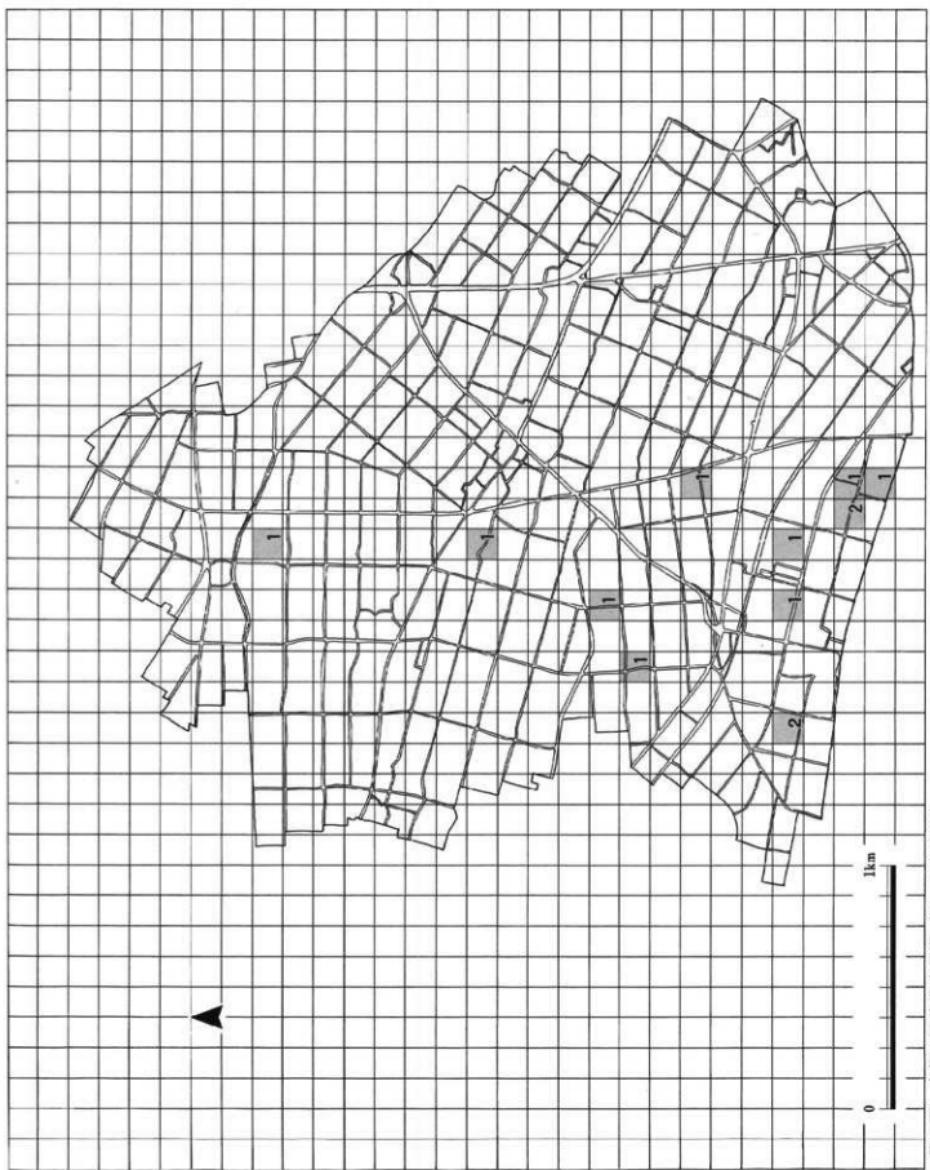
第6図 調査結果概要図2 (S=1/15,000)  
5. 稲谷古墳遺跡 6. 小二又遺跡 7. 古屋敷遺跡 8. 野地島D遺跡 9. 野地島B遺跡  
10. 野地島A遺跡 11. 野地島C遺跡 12. ヒジカケ坂遺跡 13. 飯山A遺跡 14. 米田遺跡  
15. 飯山C遺跡 16. 飯山B遺跡 17. 小丸山塙跡 18. 平林B遺跡  
19. 鰐淵戸遺跡 20. 鰐淵戸B遺跡

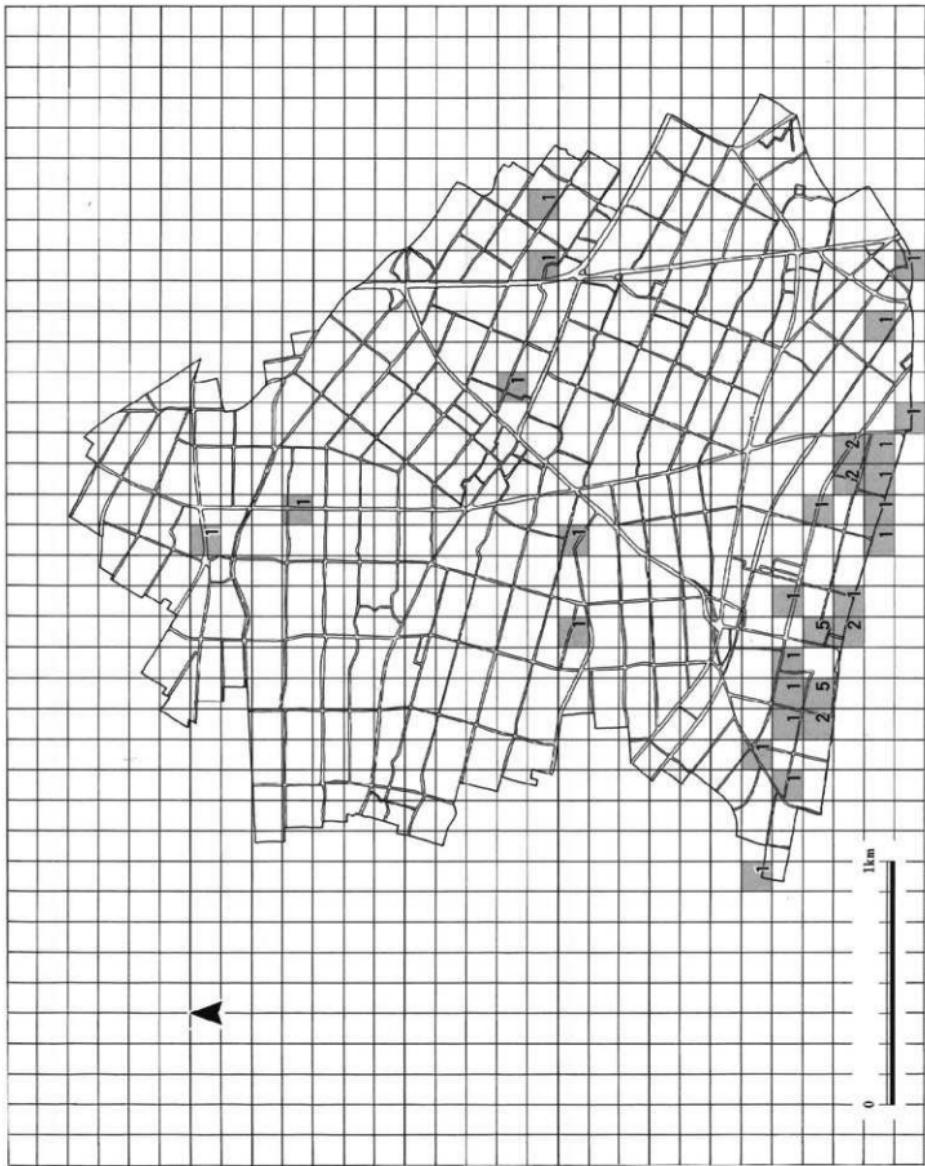
縄文 ▲ 弥生・古墳 △ 古代 ● 中世 ■ 近世 ○ 不明 □



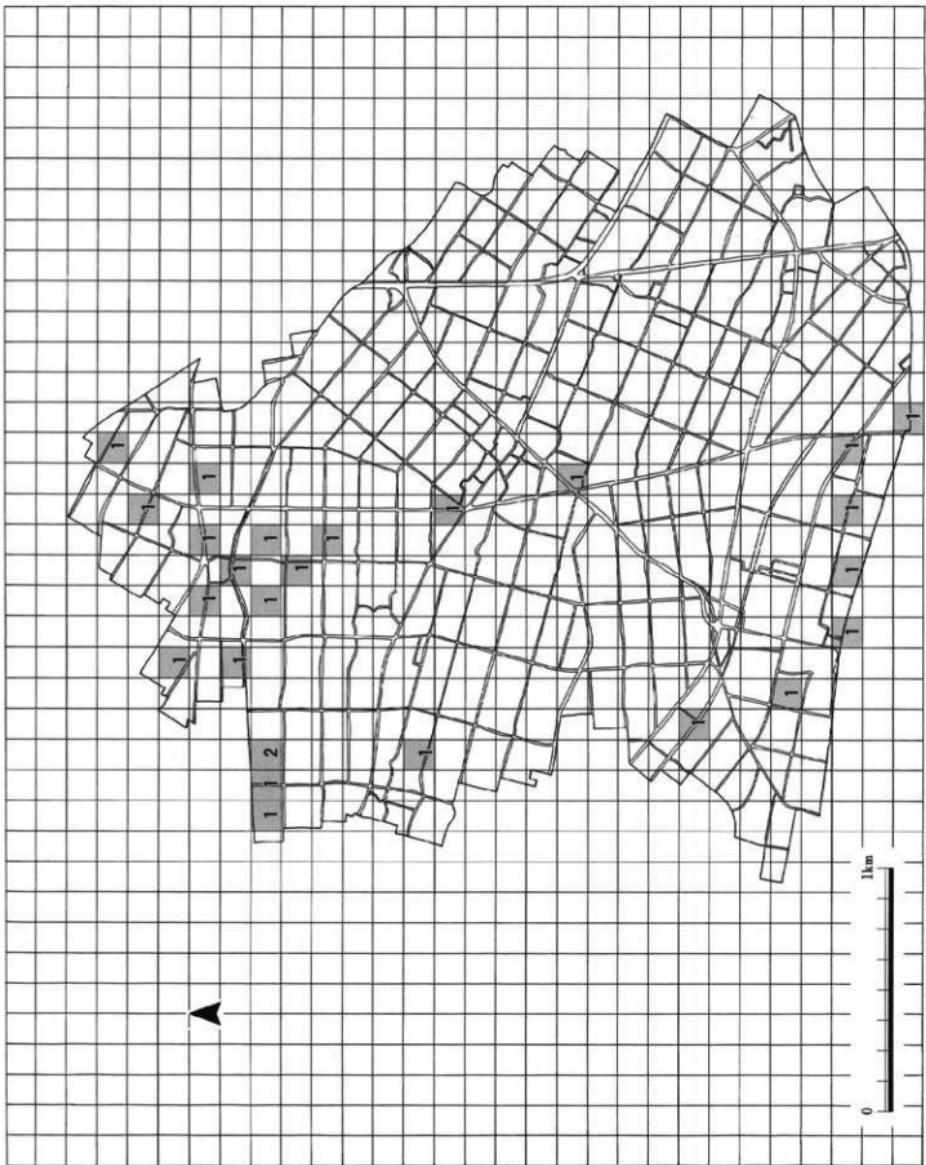
第7図 繪文・派生～古墳の遺物散布状況 ( $S = 1/20,000$ )

第8図 古代の遺物散布状況 ( $S = 1/20,000$ )

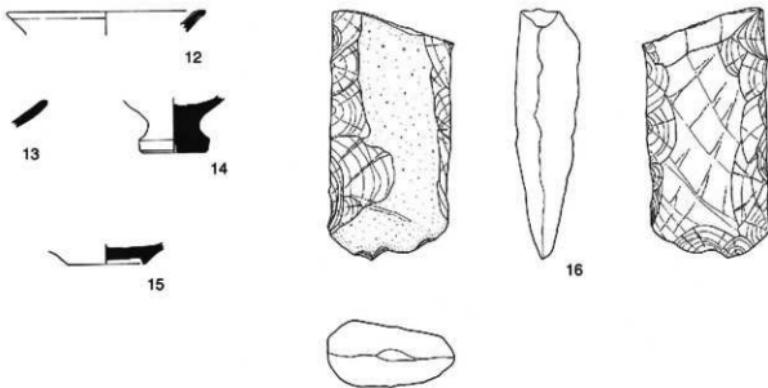
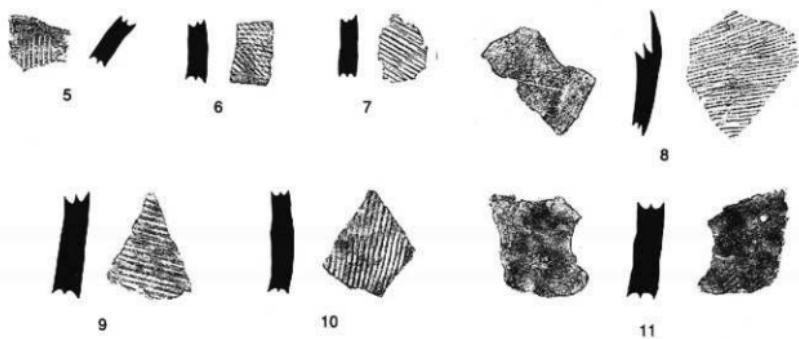




第9図 中世の遺物散布状況 ( $S = 1/20,000$ )



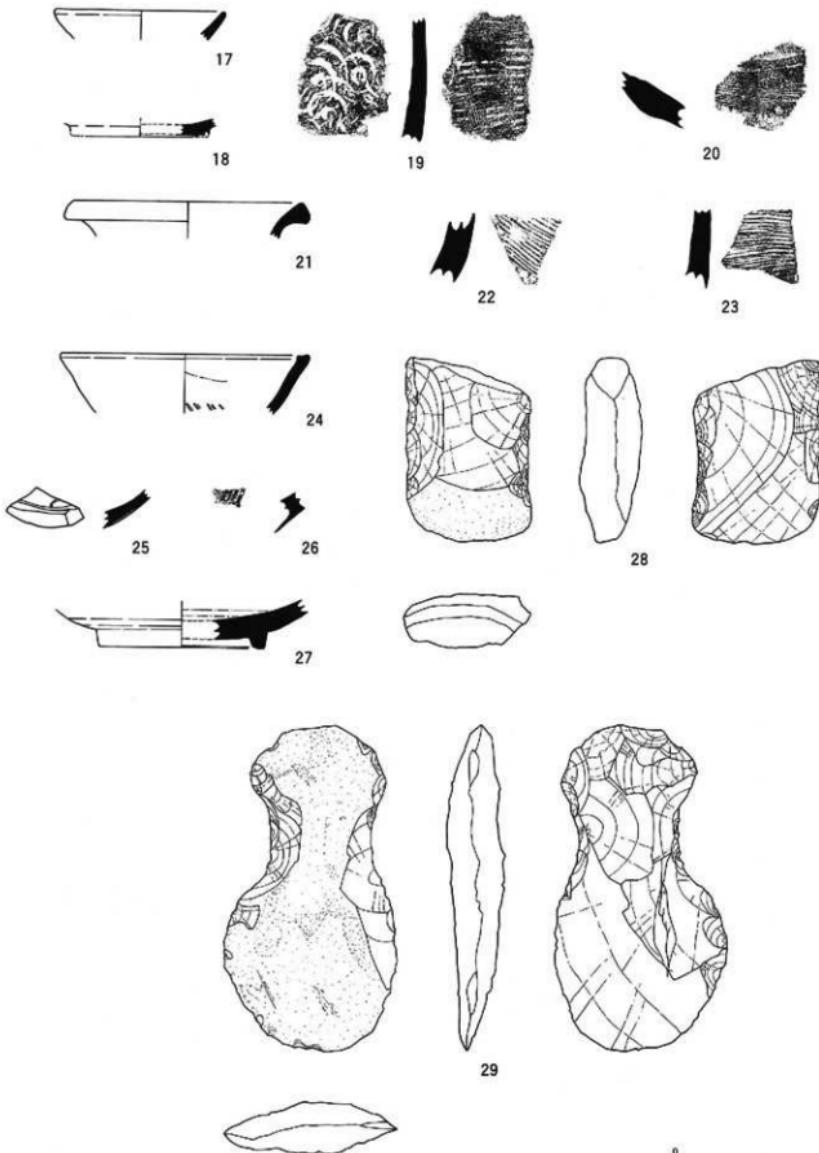
第10図 近世の遺物散布状況 ( $S=1/20,000$ )



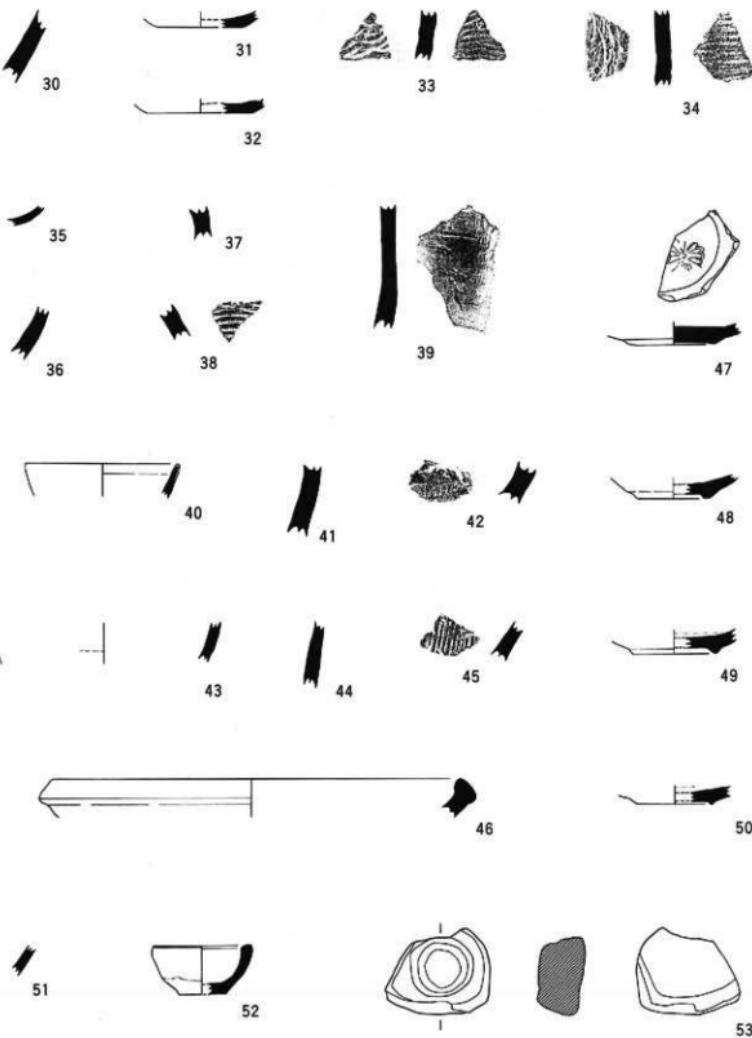
第11図 遺物実測図(1)  
1 坪野雪舟田遺跡 2~15 高瀬釣鐘堀遺跡

16 高瀬動学院遺跡 (S=1/3)

0 10cm



第12図 遺物実測図(2)  
17~27 高瀬勤学院遺跡  
28・29 遺跡範囲外出土品 (S=1/3)



第13図 遺物実測図(3)  
30~53 遺跡範囲外出土品(S=1/3)

0 1 10cm





図版1 遺跡全景(1)

1. 坪野雪舟田遺跡  
5. 糸谷古屋敷遺跡

2. 高瀬釣鐘堀遺跡  
6. 小二又遺跡

3. 高瀬勸学院遺跡  
7. 古屋敷遺跡

4. 勸学院田址  
8. 野地島D遺跡



9



10



11



12



13



14



15



16

図版2 遺跡全景(2)

9. 野地島B遺跡 10. 野地島A遺跡 11. 野地島C遺跡 12. ヒジカケ坂遺跡  
13. 飯山A遺跡 14. 米田遺跡 15. 飯山C遺跡 16. 飯山B遺跡



17



18



19



20



21



22



23



24

図版3 遺跡全景(3)

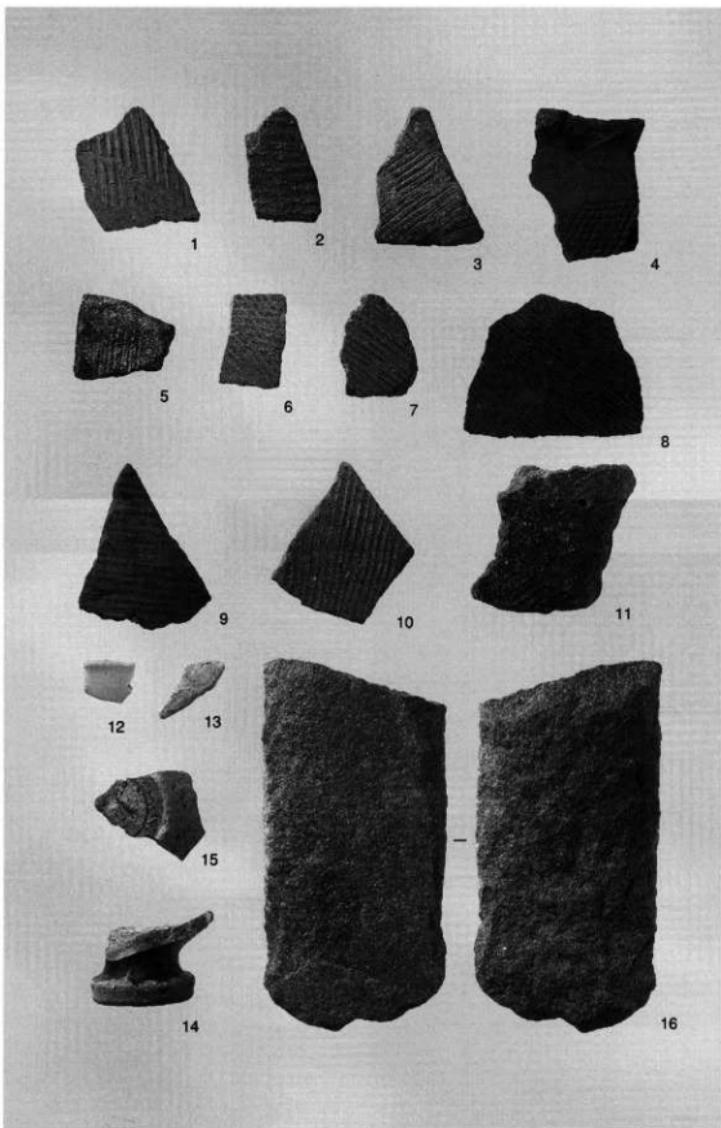
17. 小丸山遺跡

18. 平林B遺跡

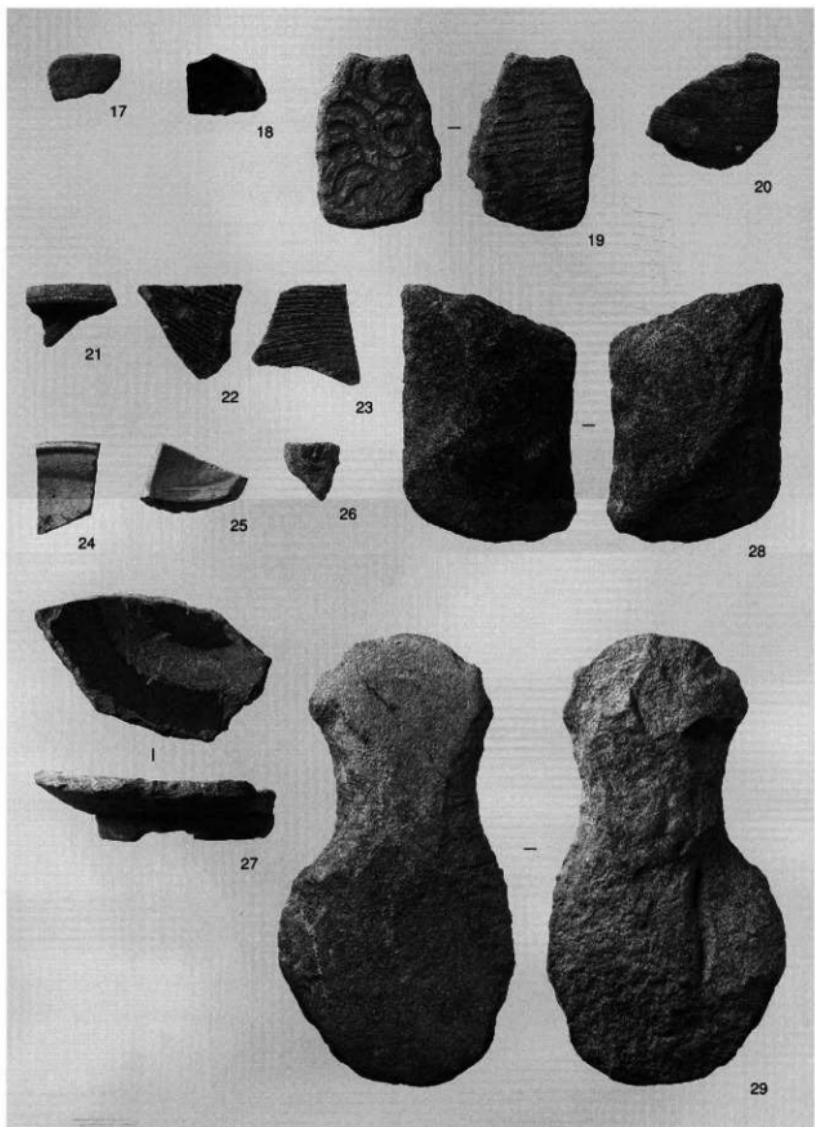
19. 桶瀬戸遺跡

20. 桶瀬戸B遺跡

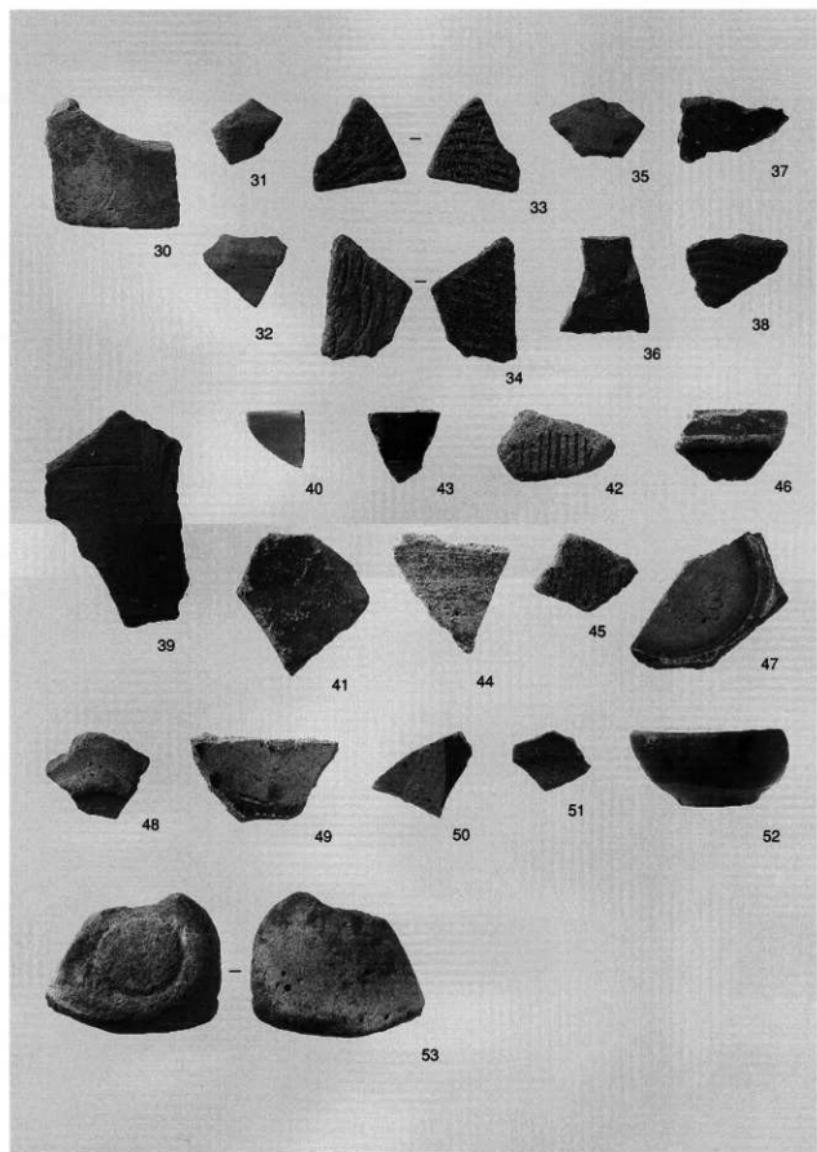
21~24. 調査風景



図版4 遺物写真(1)



図版5 遺物写真(2)



図版6 遺物写真(3)

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけん なんとしまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさほうこくろく ふくみつちいきご いなみちいきいち							
書名	富山県 南砺市埋蔵文化財分布調査報告6 一福光地域5・井波地域1-							
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書 29							
編著者名	高橋浩二 舟崎久雄 岩崎 想 今井 翔 大澤拓馬 工藤 海 三宅克幸 宮崎順一郎 黒崎 直							
編集・発行機関	南砺市教育委員会							
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL (0763)23-2014	南砺市教育委員会						
発行年月日	西暦2011年3月15日							
所取遺跡名	所取遺跡名 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
市内遺跡	富山県 南砺市 地内	16210	—	36° 34' 00"	136° 52' 40"	20100410 ~20100411 20101113	—	—
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市内遺跡	—	縄 古 中 近	文 代 世 世	—	打製石器 須恵器、土師器 中世土師器、珠洲、 青磁、越中瀬戸、 瀬戸美濃、 その他近世陶磁器	—	—	—

### 南砺市埋蔵文化財分布調査報告6

—福光地域5・井波地域1—

平成23年3月15日

編集発行 南砺市教育委員会

印刷牧印刷株式会社

